

指定管理者制度導入施設 モニタリングシート

評価年度

令和2年度

1 基本情報

公の施設名	相模原市立上九沢身体障害者デイサービスセンター
指定管理者名	社会福祉法人県央福社会
指定期間	平成31年4月1日から令和6年3月31日まで（5年間）
施設設置条例	相模原市立身体障害者デイサービスセンター条例
施設の設置目的	<p>在宅の身体障害者及びその介護を行う者に対し、通所による機能訓練、創作的活動、介護方法の指導等の各種のサービスを提供することによって、身体障害者の自立と社会参加を促進し、もって、身体障害者の福祉の増進に寄与する。</p> <p>※ 障害福祉サービス事業（生活介護）を実施。</p>
施設概要	<p>開館時間：午前8時30分から午後5時まで</p> <p>休館日：日曜日、祝祭日及び12月29日から翌年の1月3日までの日</p> <p>年間開所日数：293日</p> <p>延床面積：721.44㎡</p> <p>主な施設：食堂、作業・日常訓練室、休憩室、健康管理室・相談室、浴室（一般、機械）、脱衣室、トイレ、厨房、事務室、湯沸室、倉庫、機械室</p>
施設所管課	健康福祉局 地域包括ケア推進部 高齢・障害者福祉課

2 管理実績

項目（単位）	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
利用者数合計（人）	5,269	5,652	5,649	5,209			
自立支援給付費（円）	106,056,361	115,590,000	115,994,377	108,948,564			
利用者負担金（円）	1,734,988	2,106,252 （※112,268）	101,177	95,040			
収入総額（円）	110,407,671	120,283,033	121,291,538	113,390,631			
支出総額（円）	110,582,018	122,088,494	110,736,784	107,696,359			

3 成果指標の達成度

評価（5評価）	評価理由・委員会意見
A	令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、利用者数の減少があったものの目標値は達成されている。利用者が安心して利用できる職員体制や利用者のニーズに合わせたプログラムづくりなど、さらなる利用率の向上に取り組んでいる。

指標 1	
指標名（単位）	開所日 1 日当りの平均通所者数 単位：人
指標式と指標の説明	施設を利用し、機能訓練、創作活動等のサービスの提供を受けることにより、身体障害者の福祉の増進が図られるため、1 日当たりの平均通所者数（年間通所者数÷開所日数）を成果指標とする。

項目（単位）	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標値（人）	16.5	17.0	17.5	17.5	17.5	17.5	17.5
実績値（人）	18.0	19.3	19.3	17.8			
達成度（%）	109.1%	113.5%	110.1%	101.7%	0.0%	0.0%	0.0%

4 事業の実施状況

評価（5評価）	評価理由・委員会意見
S	達成度は125%であり、評価基準により「S評価」とする。 利用者の平均障害支援区分は、5.4であり、重度の障害者に対応するため、毎日看護師を基準以上に配置している。また、日中の支援プログラムはコロナ禍の影響を受けながらも、状況に応じた支援を行っている。

市が指定する事業

主な事業名	実施時期	内容・回数・参加者等	評価
生活介護の業務	通年	<p>○通所される利用者への日常生活上への活動支援 ・利用者の平均障害支援区分は、5.4 ※障害支援区分は非該当～区分6の7段階で、区分6が最重度 ・医療的ケア対応のため、看護師を毎日2～3名配置</p> <p>○外出プログラム ・コロナ禍により、従前の様式での開催は中止 (代)感染予防対策を施したうえで、また法令等で許される範囲で、希望者に対し、施設近隣への散策など外出機会の確保。各曜日で週に1回程度。</p> <p>○季節に合わせたプログラムの実施 ・コロナ禍により、従前の様式での開催は中止 (代)感染予防対策を施したうえで、また法令等で許される範囲で、飲食をともなわない行事参加の機会を確保。通常日課の範囲内・規模で実施。各曜日で月に1回程度。</p>	◎
入浴サービス	通年	開所日に、入浴希望の利用者へのサービス提供。	○
食事の提供	通年	嚥下障がいなどの自力での食事が困難な利用者への支援。個々の特性に応じた特別食の提供。	◎
送迎サービス	通年	行きと帰りのご自宅まで送迎サービスの実施。	○

企画提案事業

主な事業名	実施時期	内容・回数・参加者等	評価
(なし)			

自主事業

主な事業名	実施時期	内容・回数・参加者等	評価
(なし)			

5 利用者の満足度

評価（5評価）	評価理由・委員会意見
B	満足度は昨年度とほぼ横ばいになっている。 福祉オンブズマンにより、外部の視点を導入している点は評価できる。 昨年度に引き続き、回答の選択肢の中に「どちらでもない」を設定していること、満足度調査の回収率（73.4%）がやや低いことが課題になっている。より明確な利用者ニーズを把握するため、実施方法等について検討してはどうか。

利用者満足度調査	
調査手法/サンプル数	施設の利用者に調査票を配布 実施期間：令和2年12月1日～12月19日 サンプル数：49
目標値の基準	利用者満足度調査に「とても満足」「満足」「やや満足」「どちらでもない」と回答した人の割合の合計

項目（単位）	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標値（%）	91.1	91.7	92.3	92.9			
実績値（%）	91.0	92.8	92.2	92.8			
達成度（%）	99.9%	101.2%	99.9%	99.9%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!

その他の取組		
取組事項	時期	取組内容
福祉オンブズマンの来訪	月1回	相模原福祉オンブズマンが来所し、希望する利用者と一人ずつ面談を行う。福祉オンブズマンは、利用者から聞いた意見を施設側に伝え、施設側は利用者の意見を支援等に反映している。

6 施設の経営状況

評価（5評価）	評価理由・委員会意見
S	団体本体としては、経営規模が大きく経常利益がマイナスとなっても正味財産は充分維持されている。資金流動性がやや低い資金繰りに支障はない。土地建物の所有により借入金の依存度が49.2%あるが、支払利息率は低く懸念はない。自己資本比率は健全な水準にある。経営状況に特段の課題はない。

施設の収支概要		※直近3年間について記載			(千円)
項目		平成30年度	令和元年度	令和2年度	
収入（a）		120,283	121,292	113,391	
事業活動（H30）					
自立支援給付費（R1・R2）		120,283	92,478	89,053	
施設整備等（H30）		0	101	95	
利用者負担金（R1・R2）					
その他の収入		0	28,713	24,243	
支出（b）		122,088	110,736	107,696	
事業活動（H30）					
人件費（R1・R2）		103,848	73,107	70,869	
施設整備等（H30）			4,709	5,148	
本社管理経費（R1・R2）					
その他の支出		18,240	32,920	31,679	
本体事業収支 【(a)-(b)】(c)		-1,805	10,556	5,695	
自主事業収入（d）					
自主事業支出（e）					
自主事業収支 【(d)-(e)】(f)		0	0	0	
全体収支 【(c)+(f)】		-1,805	10,556	5,695	
備考					

団体の財務状況	団体本体の経営状況について特段の問題はない。
---------	------------------------

7 管理業務の履行状況

検査方法	施設所管課職員が、項目ごとに適正に実施しているかを確認する。	
実施時期	令和2年8月28日	
検査項目	確認結果	備考
管理業務	適正に実施	
危機管理	適正に実施	
人員配置・地元活用	適正に実施	
現金管理	適正に実施	
会計・経理	適正に実施	
情報セキュリティ	適正に実施	
情報公開・個人情報保護	適正に実施	
市への報告事項・事前承認等	適正に実施	
加点事由	具体的内容	

8 指定管理者の自己評価

2020年度は、新型コロナウイルスの感染拡大にともない、安全対策を講じながら、一方ではサービスの質を維持向上させる対策を講じるという、非常に困難な課題と向き合う一年となりました。これまで利用者満足度を高めてきた最大要因である“外出”が制限・自粛せざるを得ない状況となり、また日常生活上の支援の場である室内の活動場面においても3密を回避するなど、事業所の売り・強みを一から見直しました。そのさなかで実施した満足度調査では、揺れ動く利用者の感情が如実にあらわれたと考えます。勉強会や研修によって職員の知識・技術を向上するにしてもオンライン開催への対応を余儀なくされたり、自粛が長引くに従い不満が蓄積する利用者さん一人ひとりからもたらされるご意見やご要望の一つひとつに、不満の表出もストレングスと捉え丁寧に向き合いながら、現在に至っています。

9 所管課意見

- ・令和2年度はコロナによる影響で、事業が中止となる等、難しい施設の管理運営が求められる中、感染対策を行いながら、事業継続したことを評価する。
- ・市内における身体障害者を対象とした生活介護事業所が少ない中、当該施設が担う役割を認識し、障害支援区分の高い方を積極的に受け入れている点について評価する。
- ・職員体制については、看護師等の有資格者を十分に配置しているほか、勉強会や研修への参加など、職員の人材育成、支援体制の充実に努めている点も評価できる。
- ・利用者それぞれの障害の程度にあった食事の提供やりハビリ、選択制のプログラム等、利用者ニーズに合わせたサービスの提供を行っている点も評価できる。

10 選考委員会意見

【評価した点】

- ・令和2年度はコロナによる影響で、事業が中止となる等、難しい施設の管理運営が求められる中、感染対策を行いながら、事業継続したことを評価する。
- ・障害支援区分の高い方を受け入れるための人員配置や利用者個々に適した支援内容を積極的に行っている。
- ・事業計画書に位置付けた「重点課題」に対して、事業報告書の中で結果の振り返りが行われている点は評価できる。

【今後期待する点】

- ・引き続き、利用者の意向を踏まえ、ニーズに即した事業の充実と更なるサービスの質の向上に取り組むこと。

総合評価（自動判定）

A

(80/100)

